

# 苗字に関する態度と自我同一性、家族アイデンティティ、 および伝統的家族観との関連 —大学生における苗字の役割とその性差の心理学的研究—

太田 洋介\*・石野 陽子\*\*

Yosuke OHTA and Yoko ISHINO

Relationship among Surname-attitude, Self-identity, Family-identity, and Traditional View of Family  
—A Psychological Study on the Role of Surname and the Gender in the Undergraduate Students—

## 要 約

近年、以前にも増して選択的夫婦別姓制度の導入への動きが高まっている。本研究では、苗字に関する態度と個人としてのアイデンティティ、家族の一員としてのアイデンティティ、家族一般に対する伝統的な価値観との関連を見ることにより、夫婦同姓が制度上規定されている現在における大学生時点での苗字の心理的な役割を検討した。研究Ⅰでは新しく苗字態度尺度の作成を試みた結果、「同姓他者への親近感」、「上位世代でのつながり感」、「愛情期待」、「苗字によるつながり認知」、「自分の苗字への愛着」の5因子からなる尺度が作成された。研究Ⅱでは家族一般に対する伝統的な価値観を測定する伝統的家族観尺度の作成を試みた結果、「伝統的性役割」、「累代的つながり」の2因子からなる尺度が作成された。研究Ⅲでは研究Ⅰの苗字態度尺度、多次元自我同一性尺度、家族アイデンティティ尺度、研究Ⅱの伝統的家族観尺度の相関を対象者全体、男性、女性において見ることにより、苗字の役割を検討した。男性では特に家族アイデンティティの形成に苗字の役割が、また女性では特に自己の同一性を形成しにくい際に苗字の役割が見出された。また男女共通に、個人が現在所属している家族の一員として存在しているというヨコのつながりの感覚に苗字の役割が見出された。さらに家族のタテのつながりに苗字が役割を果たしていることが見出された。

【キーワード：苗字に関する態度、自我同一性、家族アイデンティティ、伝統的家族観】

## 問 題

### 夫婦別姓への動き

2009年の衆議院議員選挙によって政権が民主党へと代わり、選択的夫婦別姓制度導入への動きが高まっている。民主党などの民法改正案は、(1)結婚時に夫婦が同姓か別姓かを選択できる、(2)結婚できる年齢を男女とも18歳にそろえる——ことが柱（読売新聞, 2009/9/27）であるという。

内閣府は全国の20歳以上の人々を対象に選択的夫婦別氏制度に対する世論調査を行っている。それによると、「婚姻をする以上、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきであり、現在の法律を改める必要はない」と答えた者の割合が35.0%、「夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦がそれぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるように法律を改めてもかまわない」と答えた者の割合が36.6%、「夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望していても、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきだが、婚姻によって名字（姓）を改めた人が婚姻前の名字（姓）を通称としてどこでも使えるように法律を改めることについてはかまわない」と答えた者の割合が25.1%という結果が出ている（内閣府大臣官房政府広報室, 2007）。

夫婦同姓／別姓に関する議論の内実は多岐にわたる。

福島（1992）は夫婦同姓を強制することについて、「アイデンティティー（自己同一性）を侵害することがある」、「姓を変えることが、不便・不利益だ」、「男女不平等を助長し、また、『家制度』を温存することに役立っている」として、反対している。また日本弁護士連合会（1996）も「氏名は、個の表象であって、人格の重要な一部である。価値観・生き方の多様化している今日、別姓を望む夫婦にまで同姓を強制する理由はなく、別姓を選択できる制度を導入して、個人の尊厳と両性の平等を保障すべきである」として、選択的夫婦別姓制度の導入を提案している。一方で日本政策研究センター（1995）は、個人主義化が「理想の家族を求めつつ、ますますその理想から遠ざかって」いることを指摘し、「『われ』の論理ではなく、『われわれ』という連帯意識——個人主義を超えた論理こそ、今見直されるべきテーマではないか」とし、「祖先から子孫へとつながる累代的な『われわれ』意識を担保する」、「歴史的な姓を名乗ることによって、自らの存在が決して孤立した空虚なものではないことを確認することができる」としている。その上で「夫婦別姓はかかる家族の『絆』を断ち切ろうとする策動である」として、夫婦別姓制度に反対している。

### 心理学における苗字の研究

苗字（今回の研究では「姓」、「苗字」、「名字」等を全て「苗字」に統一する。なお、引用の際には引用元の表

\* 島根大学教育学部学校教育課程Ⅰ類 心理・臨床専攻

\*\* 島根大学教育学部 心理・発達臨床講座

記を尊重する)の心理的な役割は何であろうか。これを明らかにしていくことは、夫婦同姓/別姓論争に何らかの示唆を与えるように思われる。

心理学において苗字に関する研究は少ない。代表的なものとして土肥(2007)の研究が挙げられる。

土肥(2007)は苗字を世代や職業と同様に社会的カテゴリーの一つとして捉え、「苗字に対する帰属意識や親近感、同姓の他者に対する同一視などを、『苗字アイデンティティ』としたい」として定義する。ここで苗字アイデンティティは社会的アイデンティティのひとつという位置づけがなされている。社会的アイデンティティ(social identity; Tajfel & Turner, 1979)とは、自己概念の中でも特に集団や社会的カテゴリーに所属することへの自覚に基づく自己イメージであり、これには通常、所属集団に対する評価や地位の高低と連合した、優越感や劣等感といった情緒的意味が付帯するものである(唐沢, 2005)。社会的アイデンティティ理論(Social identity theory, Tajfel & Turner, 1986)に従えば、われわれは内集団(人種・性別・職業などの社会的カテゴリーも含む)における自己の所属性が強く意識される場面では、内集団・外集団間の境界を明確にし、前者を後者よりも高く評価する。これによって明確な自己同一性(アイデンティティ)を確立し、他者との比較を通して望ましい自己評価を行うような動機を満たす、とされる(唐沢, 1999)。土肥(2007)は女子大学の学生を対象に調査を行い、苗字アイデンティティ尺度を作成している。そして、希少な苗字のものほど苗字アイデンティティが高い傾向を見出している。また、主観的にも自分の苗字を珍しいと感じるものほど、苗字アイデンティティが高まる傾向を見出している。

土肥(2007)の研究は苗字への意識の高まりの要因を苗字の希少さへ求めた点で特徴的である。一方で、日常生活においては苗字が個人を指し示す記号として用いられていることを考えると、他の要因による説明も期待できる。例えば他者から苗字で呼ばれる時、他者に自分を紹介する時、また所有物や書面に氏名を記入する時など、我々は個人を表す記号として苗字を使用している。これは個人が言葉を獲得し社会にさらされる幼児期や児童期から始まる社会的な営みであり、以後死ぬまでずっと続けられるものと言えるだろう。そのような意味において、苗字は個人の同一性や連続性を支える役割の一端を担っていることが予想される。

同時に苗字は、個人が現在所属している家族や親族集団の一員であることを示す記号としても存在すると思われる。それは親子の苗字が同じであることにとどまるものではない。例えば「この子は〇〇家では珍しいタイプだ」といった表現からも、苗字が親族集団の範囲を示しつつ個人に影響していることがわかる。ここにおける苗字の役割は、先祖からのタテのつながりを個人に認識させる点とともに、現在の家族の一員であることの自覚といった情緒的なヨコのつながりを下支える点に見出される。

以上を踏まえると、苗字アイデンティティは個人レベルでのアイデンティティや家族レベルでのアイデンティティから、その高まりが説明されるように思われる。すなわち、個人としてのアイデンティティや家族の一員としてのアイデンティティが高い者ほど苗字の役割を無意識のうちに見出し、苗字アイデンティティを高めると予想される。あるいは苗字アイデンティティが高い者ほど、家族や個人のアイデンティティが高いと予想される。夫婦同姓/別姓論争への心理学的アプローチとしてこれらの関係を探ることは、苗字の心理的役割を見出すという意味において有意義な作業であると考えられる。

夫婦同姓/別姓論争ではまた、夫婦が同姓であることと近代家族のあり方との関連について言及されていた。近代家族は「『民主的個人主義』の価値規範によって統制され」、また「家族成員の基本的な人権と自由が尊重され、「家」継承のための生殖よりも夫婦の愛情と信頼が強調され、そして家族は子どもの社会化のための基本的場として重視される」と理念的に定義される(本村, 1993)。しかし現状は必ずしも理念通りでない。上野(1994)は、明治民法が廃止された後も日本の近代家族が家父長制の性質を残しているというフェミニストの指摘を示した上で、「戦前、戦後を通じて、近代家族に固有の抑圧性が一貫して続いている」としている。ここで家父長制とは「女性を犠牲にして男性に特権を与える普遍的な政治構造」と定義される(Tuttle, 1986)。また上野(1994)は日本の伝統的家族だと一般に思われているような排他的な父系相続制を特徴とする「家」制度が、明治民法によって“つくられた”ものであることを指摘している。これらの議論を眺めれば、夫婦同姓/別姓論争には明治民法下での「家」制度とそれが廃止された戦後の家族にも残る男女の不平等といった、日本の近代家族の矛盾が主要な論点となって表れている。

心理学における研究では、結婚や家族に対する意識や性別役割に対する意識を問う尺度は散見されるが、上記のような、言わば家族一般に対する伝統的な価値観を問うような尺度はほとんど見られない。そのような尺度を作成し苗字アイデンティティとの関係を探ることもまた、夫婦同姓/別姓論争に有意義な示唆を与えると考えられる。

#### 検討にあたって

検討にあたってまず、土肥(2007)の苗字アイデンティティ尺度をもとに新しく尺度を作成する。土肥(2007)の苗字アイデンティティ尺度は「同姓への仲間意識・親近感」、「自分の苗字への愛着感」、「自分の苗字の多数派意識」の3因子から成る。今回は苗字に対する態度に焦点を当て、「同姓への仲間意識・親近感」と「自分の苗字への愛着感」の2因子に着目する。前者は同姓の他者に対する態度、後者は自分の苗字に対する態度が問われていた。このうち同姓の他者に対する態度については、回答時に想定する対象が多方面にわたり、またその関係も様々になりやすいと思われる。例えば同姓の知人に抱く親近感とメディアに登場する同姓の人に抱く親近感と

では、反応の性質が異なることが予想される。たとえば、同姓であるということは、他者につきあい始めるきっかけとして大きく貢献するかもしれない。しかし、いったん知人になってしまえば日常生活において会う確率が高くなり、結果的に同姓であることの親近感がかえって薄らぐかもしれない。一方、メディアに登場する人とは、その関係が密になっていくことは少なく、いつまでも遠い存在のままであることが多い。しかし、その人は社会的に評価されやすい存在であるため、仮に良い評価を得ていれば、抱く親近感によって自身の評価にもつながり、ますます親近感が高まることも考えられる。

そこで今回の研究では、「自分の苗字に対する態度」、「姓を共有する家族に対する態度」、「同姓の知人に対する態度」、「同姓の他者に対する態度」の4つの領域から苗字に関する態度を捉え、質問項目を作成することを提案する。苗字に関する態度がどこでどのように形成されるかを詳細に見る上で、この捉え直しは有用であるように思われる。

個人としてのアイデンティティについては、谷（2001）の作成した多次元自我同一性尺度（MEIS）から検討する。この尺度ではEriksonの理論に基づいて、青年期における同一性の感覚を「自己斉一性・連続性」、「対自的同一性」、「対他的同一性」、「心理社会的同一性」の4次元で捉えている。多次元自我同一性尺度を用いた先行研究の例として次が挙げられる。宮崎・西川（2004）は「対自的同一性」が中学生の進路決定における自己効力のうちの「将来展望」に影響することを見出し、「自己のあり方や生き方に関する鮮明な意識を持つことが、自分の将来の進路に関して積極的・計画的に考えていけるという自信を高めることを示唆している」としている。松下・吉田（2009）は大学生を対象とした調査から、友人に気を使う人や深い関わりを回避する人は自我同一性の確立感が低いことを、また積極的に友人との快活な関係を求め自己を開示するような関わり方をする人は自我同一性の確立感が高いことを見出している。

家族の一員としてのアイデンティティについては、林・岡本（2003）が「家族アイデンティティ」という語を用いて、「自分は家族の一員であるという感覚が、斉一性と連続性を持って自分自身の中に存在し、また、それが他の家族成員にも承認されている状態」と定義している。その上で林・岡本（2005）は家族アイデンティティ尺度を作成し、家族アイデンティティの構造を「家族の存在感」、「家族価値との適合性」、「家族との関係」、「対家族的自己」、「自己に対する家族の評価」の5つの因子によって説明している。本研究では家族の一員としてのアイデンティティについて、この家族アイデンティティ尺度から検討することとする。

## 目 的

本研究の目的を整理する。研究Ⅰでは新しく苗字態度尺度を作成し、その因子構造と信頼性を検討する。研究

Ⅱでは家族一般に対する伝統的な価値観を問う伝統的家族観尺度を作成し、その因子構造と信頼性を検討する。研究Ⅲでは苗字に関する態度と個人としてのアイデンティティ、家族の一員としてのアイデンティティ、及び伝統的家族観との関連を検討することによって、苗字の心理的役割を検討することを目的とする。

## 研究Ⅰ

### 目的

苗字に関する態度を問う苗字態度尺度を新しく作成する。また作成した尺度について因子構造と信頼性を検討する。

### 方法

#### 1) 調査期日

2010年5月17日、20日、26日に実施した。

#### 2) 調査対象者

国立大学生を対象とした。有効回答は男性53名（平均年齢21.04歳）、女性91名（平均年齢20.15歳）、性別不明1名（年齢不明）の合計145名（平均年齢20.60歳）であった。

#### 3) 調査方法

質問紙による調査を実施した。大学の講義のなかで一斉配布し、まとめて回収した。配布部数は151部、回収部数は146部、有効調査部数は145部であった。

#### 4) 質問紙の構成と回答方法

性別、年齢、苗字態度尺度作成のための項目群（資料1）から成る質問紙を配布した。苗字態度尺度作成のための60の項目群について、「a：あてはまる、b：どちらかといえばあてはまる、c：どちらかといえばあてはまらない、d：あてはまらない」の4件法による回答を求めた。

#### 5) 項目選定の手続き

土肥（2007）の苗字アイデンティティ尺度の項目を参考に、「自分の苗字に対する態度」、「姓を共有する家族に対する態度」、「同姓の知人に対する態度」、「同姓の他者に対する態度」の4つの観点から項目を追加・作成した。

### 結果と考察

苗字態度尺度作成のための60の項目群について、「あてはまらない」から「あてはまる」に対し1から4の得点化を施した。最尤法による因子分析を行い、プロマックス回転を行った。固有値と解釈可能性の観点から5因子を抽出した。因子負荷量の低い項目を除き、最終的に第1因子17項目、第2因子6項目、第3因子7項目、第4因子7項目、第5因子5項目の計41項目を苗字態度尺度の項目として選定した。回転後の因子パターンをTABLE 1に示す。

第1因子は「自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人でもひいき目に見てしまう」、「自分と同じ苗字の知人とは仲良くなりやすい気がする」などの項目からなっており、これを「同姓他者への親近感」と命名した。第2因子は「自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でも同じ先祖ではないかと思う」、「自分と同じ苗字の知人とは同

じ先祖ではないかと思う」などの項目からなっており、これを「上位世代でのつながり感」と命名した。第3因子は「自分の苗字が変わったら、親が嫌な気持ちになる」、「自分の苗字が変わったら、親が寂しがる」などの項目からなっており、これを「愛情期待」と命名した。第4因子は「親の苗字が変わったら、私は悲しくなる」、「親戚の苗字が変わったら、私は悲しくなる」などの項目からなっており、これを「苗字によるつながり認知」と命名した。第5因子は「苗字は自分の一部分だ」、「自分の苗字が気に入らない（逆転）」などの項目からなっており、これを「自分の苗字への愛着」と命名した。

尺度作成時には「自分の苗字に対する態度」、「姓を共有する家族に対する態度」、「同姓の知人に対する態度」、「同姓の他者に対する態度」の4領域を想定したが、因子構造にはそれが表れなかった。特に知人とそれ以外の他者の間で苗字に対する態度は区別されないことが、「同姓への親近感」因子と「上位世代でのつながり感」因子の項目から分かる。また「同姓への親近感」因子が同姓他者本人への直接の反応であるのに対し、「上位世代でのつながり感」因子は同姓他者に対し先祖を介したつながりを見出す反応であるということが出来る。苗字が先祖とのつながりを意識させ、またその意識が他者に対し

TABLE1 苗字態度尺度の因子分析結果

	因子				
	同姓他者への親近感	上位世代でのつながり感	愛情期待	苗字によるつながり認知	自分の苗字への愛着
24.自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人でもひいき目に見てしまう	<b>.914</b>	-.094	.075	-.052	-.103
15.自分と同じ苗字の人がメディアでたたえられていると嬉しくなる	<b>.872</b>	-.085	-.106	.144	.000
03.自分と同じ苗字の人がメディアに登場すると得意になる	<b>.865</b>	-.204	-.088	.071	.027
08.自分と同じ苗字の人がメディアに登場すると注目する	<b>.843</b>	-.092	-.151	.025	.041
29.自分と同じ苗字の知人をひいき目に見てしまう	<b>.769</b>	.019	.041	.013	-.044
34.自分と同じ苗字の知人とは仲良くなりやすい気がする	<b>.730</b>	.134	-.208	.007	.095
28.自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人に対しても運命的なつながりを感じる	<b>.725</b>	.095	.275	-.113	-.208
38.自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でもひいき目に見てしまう	<b>.717</b>	.079	-.071	.102	.090
19.自分と同じ苗字の知人に対して運命的なつながりを感じる	<b>.709</b>	-.003	.165	-.097	-.041
33.自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人に対しても運命的なめぐり合わせを感じる	<b>.686</b>	.101	.273	-.118	-.169
14.自分と同じ苗字の知人が身近にいると、その相手を意識してしまう	<b>.612</b>	.083	-.055	.100	.000
21.自分と同じ苗字なら、それまで親交のなかった人に対しても運命的なめぐり合わせを感じる	<b>.554</b>	.222	.079	.014	-.009
13.自分と同じ苗字の人が犯罪をしたことを知ると嫌な気持ちになる	<b>.549</b>	-.180	.109	.272	.011
01.自分と同じ苗字の人に会うと嬉しい	<b>.530</b>	-.033	-.133	.195	.075
05.自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でも仲良くなりやすい気がする	<b>.512</b>	.160	-.142	.006	.153
57.それまで親交のなかった人が自分と同じ苗字だとわかると嬉しい	<b>.507</b>	.103	-.031	.211	-.019
44.自分と同じ苗字の知人に対して運命的なめぐり合わせを感じる	<b>.503</b>	.309	.043	.004	.054
10.自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でも同じ先祖ではないかと思う	-.139	<b>1.002</b>	-.134	-.012	.018
39.自分と同じ苗字の知人とは同じ先祖ではないかと思う	.073	<b>.878</b>	-.092	.058	.092
45.自分と同じ苗字の知人とはどこかでつながっていると思う	.125	<b>.826</b>	-.003	-.011	.030
20.自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人でも同じ先祖ではないかと思う	.069	<b>.795</b>	.014	.018	-.004
52.自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でもどこかでつながっていると思う	.204	<b>.645</b>	.183	-.081	-.031
25.自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人でもどこかでつながっていると思う	.320	<b>.606</b>	.098	-.167	-.046
58.自分の苗字が変わったら、親が嫌な気持ちになる	-.282	-.029	<b>.846</b>	.240	-.063
48.自分の苗字が変わったら、親が寂しがる	-.217	.103	<b>.760</b>	.287	-.046
60.自分の苗字が変わると、それまで培ってきたものが消える気がする	-.015	-.040	<b>.751</b>	-.050	.073
09.自分の苗字が変わったら、親が悲しむ	-.069	.085	<b>.680</b>	.182	-.058
47.苗字が変わると、それまでの自分とは異なってしまう	.032	.015	<b>.661</b>	-.002	-.001
23.結婚しても今の苗字を変えたくない	.237	-.174	<b>.636</b>	-.150	.219
18.結婚後も旧姓を通称として使うつもりだ	.240	-.186	<b>.559</b>	-.285	.270
37.親の苗字が変わったら、私は悲しくなる	.007	-.034	-.001	<b>.857</b>	.038
12.親の苗字が変わったら、私は嫌な気持ちになる	.161	-.075	.034	<b>.796</b>	-.064
02.親の苗字が変わったら、私は寂しくなる	.144	-.131	.042	<b>.777</b>	-.016
07.親戚の苗字が変わったら、私は悲しくなる	.025	-.031	.081	<b>.531</b>	.073
50.自分の苗字を知人が覚えてくれていると嬉しい	.063	.088	-.153	<b>.504</b>	.146
17.兄弟や姉妹の苗字が変わったら、私は寂しくなる	.046	.146	.153	<b>.422</b>	-.064
22.兄弟や姉妹の苗字が変わったら、私は悲しくなる	.025	.211	.195	<b>.411</b>	-.038
36.苗字は自分の一部分だ	-.037	.069	.080	.025	<b>.796</b>
41.自分の苗字と自分自身とは切り離すことができない	-.070	-.133	.276	.027	<b>.793</b>
51.自分の苗字が気に入らない	-.004	.036	.148	-.003	<b>-.689</b>
04.自分の苗字が好きだ	.071	.196	.012	-.059	<b>.606</b>
11.自分の苗字が大切だ	.014	.127	.116	.183	<b>.603</b>
Cronbach のアルファ	.950	.948	.869	.860	.849
固有値	15.680	4.150	2.857	2.361	1.919
寄与率	37.334	9.881	6.802	5.622	4.568
累積寄与率					64.207
因子間相関(%)		.678	.470	.340	.271
			.488	.289	.204
				.450	.191
					.299

でも適用されることが、「上位世代でのつながり感」因子の特徴であると思われる。「愛情期待」因子と「苗字によるつながり認知」因子はどちらも家族や親族の改姓の際に起こる否定的な態度を尋ねている。「愛情期待」因子は、得点が高いほど「親が悲しむ」というある種の関心が自分に向けられていると認識していることを表している。一方「苗字によるつながり認知」因子は、得点が高いほど改姓を否定的に見る、つまり苗字によって親族とつながっていると認識していることを表していると言えるだろう。「自分の苗字への愛着」因子は得点が高いほど自分の苗字に対する好意的な態度が高いことを表している。

各因子について $\alpha$ 係数を算出したところ、「同姓他者への親近感」で.950、「上位世代でのつながり感」で.948、「愛情期待」で.869、「苗字によるつながり認知」で.860、「自分の苗字への愛着」で.849と、いずれも高い値を示していた（TABLE 1）。よって各尺度に十分な信頼性が確保されていることが示された。

苗字態度尺度の因子分析の結果から、大学生における苗字に関する態度は「同姓他者への親近感」、「上位世代でのつながり感」、「愛情期待」、「苗字によるつながり認知」、「自分の苗字への愛着」の5つによって捉えられることが示唆された。どの因子も高い信頼性を示したことから、今回作成した尺度が苗字に関する態度をより詳細に捉える上で有用であると言えるだろう。

## 研究Ⅱ

### 目的

家族一般に対する伝統的な価値観を問う「伝統的家族観尺度」を作成する。また作成した尺度について因子構造と信頼性を検討する。

### 方法

#### 1) 調査期日

2009年11月6日、13日に実施した。

#### 2) 調査対象者

国立大学生を対象とした。有効回答は男性45名（平均年齢20.02歳）、女性52名（平均年齢20.33歳）の合計97名（平均年齢20.17歳）であった。

#### 3) 調査方法

質問紙による調査を実施した。大学の講義のなかで一斉配布し、まとめて回収した。配布部数は100部、回収部数は97部、有効調査部数は97部であった。

#### 4) 質問紙の構成と回答方法

フェイスシート（性別、年齢）、伝統的家族観の項目群（34項目）から成る質問紙を配布した。伝統的家族観尺度作成のための34の項目群について、「1：まったくあてはまらない、2：あまりあてはまらない、3：少しあてはまる、4：まったくあてはまる」の4件法による回答を求めた。

#### 5) 項目選定の手続き

国立大学の心理学専攻学生4人による自由記述か

ら質問項目を作成した。さらに鈴木（1994）の作成した平等主義的性役割態度スケール短縮版（SESRA-R）や、松原・高橋・細川・大村（1971）、青山・武田・有地・江守・松原（1974）、長田（1987）を参考に質問項目を補足した。

### 結果と考察

伝統的家族観尺度作成のための34の項目群について、「あてはまらない」から「あてはまる」に対し1から4の得点化を施した。最尤法による因子分析を行い、プロマックス回転を行った。固有値と解釈可能性の観点から2因子を抽出した。因子負荷量の低い項目を除き、最終的に23項目を伝統的家族観尺度の項目として選定した。回転後の因子パターンをTABLE 2に示す。

第1因子は「家計簿をつけるのは妻の仕事だ」、「家族の物事の最終的な決定権を持つのは男性だ」などの項目からなっており、これを「伝統的性役割」と命名した。第2因子は「自分の先祖からの苗字を絶やしてはならない」、「先祖から受け継いだ家の流れは途絶えさせないべきだ」などの項目からなっており、これを「累代的つながり」と命名した。伝統的家族観尺度の因子分析の結果から、大学生における家族一般に対する伝統的な価値観は「伝統的性役割」、「累代的つながり」の2つによって捉えられることが示唆された。明治民法下での「家」制度とそれが廃止された戦後の家族にも残る男女の不平等といった、夫婦同姓／別姓論争で論点となっていた日本の近代家族の矛盾が、それぞれ「累代的つながり」と「伝統的性役割」に表れているとも言えるだろう。

TABLE 2 伝統的家族観尺度の因子分析結果

	因子	
	性伝 統的 役割	つ な が り 的 累 代 的
14.家計簿をつけるのは妻の仕事だ	.771	-.113
26.婿（むこ）入りは、極力避けるべきだ	.771	-.159
32.家族の物事の最終的な決定権を持つのは男性だ	.770	-.190
21.夫は仕事に専念するべきだ	.753	.016
15.妻は家事に専念するべきだ	.746	-.254
27.子育ては母親が行うべきだ	.704	.001
22.妻は家計のやりくりの際に、夫の許可を取るべきだ	.700	-.052
08.娘は将来主婦になることを想定して育てるべきだ	.689	-.010
19.生活の重要事項は夫が決めるべきだ	.672	-.025
18.妻は夫の家系の墓に入るべきだ	.644	.173
10.子どもの世話は母親が主にするものだ	.640	-.002
29.結婚に際しては男性側の家の意見を優先するべきだ	.609	.028
25.息子は将来職業人になることを想定して育てるべきだ	.607	.094
23.妻は夫の墓に入らなければならない	.600	.148
33.女性は嫁に行くべきだ	.588	.142
03.家事は女性が行うべきだ	.571	.157
17.自分の祖先からの苗字を絶やしてはならない	.082	.871
13.先祖から受け継いだ家の流れは途絶えさせないべきだ	-.075	.864
11.姓は後世に残すべきだ	.029	.849
24.祖先からの苗字を自分が絶やしてはならない	.154	.785
28.血縁は残していくべきものだ	.132	.781
01.先祖とのつながりを大切にすべきだ	-.224	.588
34.墓参りには定期的に行くべきだ	-.224	.509
Cronbach のアルファ		.930 .901
固有値		12.618 3.501
寄与率		37.112 10.298
累積寄与率		47.409
因子間相関(%)		.550

各因子について $\alpha$ 係数を算出したところ、「伝統的性役割」で.930、「累代的つながり」で.901と、いずれも高い値を示していた (TABLE 2)。よって各尺度に十分な信頼性が確保されていることが示された。

### 研究Ⅲ

#### 目的

苗字に関する態度と個人としてのアイデンティティ、家族の一員としてのアイデンティティ、及び伝統的家族観との関連を検討することによって、苗字の心理的役割を検討することを目的とする。

#### 方法

##### 1) 調査期日

2010年7月10日に実施した。

##### 2) 調査対象者

国立大学生を対象とした。有効回答は男性101名 (平均年齢19.81歳)、女性55名 (平均年齢19.45歳)、性別不明2名 (年齢不明) の合計158名 (平均年齢19.63歳) であった。

##### 3) 調査方法

質問紙による調査を実施した。大学の講義のなかで一斉配布し、まとめて回収した。配布部数は165部、回収部数は160部、有効調査部数は158部であった。

##### 4) 質問紙の構成と回答方法

苗字態度尺度：研究Ⅰで作成した41項目を使用した。「A：あてはまる、B：どちらかといえばあてはまる、C：どちらかといえばあてはまらない、D：あてはまらない」の4件法による回答を求めた。

多次元自我同一性尺度 (MEIS)：谷 (2001) の20項目を使用した。「A：非常にあてはまる、B：かなりあてはまる、C：どちらかというにあてはまる、D：どちらともいえない、E：どちらかというにあてはまらない、F：ほとんどあてはまらない、G：全くあてはまらない」の7件法による回答を求めた。

家族アイデンティティ尺度：林・岡本 (2005) の作成した尺度のうち、因子負荷量が.500以上の32項目を使用した。「A：あてはまる、B：どちらかといえばあてはまる、C：どちらともいえない、D：どちらかといえばあてはまらない、E：あてはまらない」の5件法による回答を求めた。

伝統的家族観尺度：研究Ⅱで作成した23項目を使用した。「A：あてはまる、B：どちらかといえばあてはまる、C：どちらかといえばあてはまらない、D：あてはまらない」の4件法による回答を求めた。

#### 結果と考察

##### 1) 苗字態度尺度の因子分析と性差の検討

苗字態度尺度41項目について、「あてはまらない」から「あてはまる」に対し1から4の得点化を施した。最尤法による因子分析を行い、プロマックス回転を行った。共通性の低い6項目を除き再度因子分析を行った結果、研究Ⅰと同様に5つの因子が抽出された。順に「同姓他

者への親近感」、「上位世代でのつながり感」、「苗字によるつながり認知」、「愛情期待」、「自分の苗字への愛着」であった。これを後の検討のための項目として確定した。結果をTABLE 3に示す。

各因子について性差を検討するため、性別を要因としたt検定を、因子得点を用いて行った。その結果、次の3因子で有意に男性が高かった。「同姓他者への親近感」( $t=2.095, p=.038$ )、「愛情期待」( $t=2.424, p=.017$ )、「自分の苗字への愛着」( $t=2.689, p=.008$ )。TABLE 4に各因子の平均値及び標準偏差、t検定の結果を示す。

この結果は、現在9割以上の夫婦が夫の姓にあわせており (厚生労働省, 1998)、男性は苗字を変えることが稀であることが影響しているものと考えられる。男性は苗字を変えることが珍しいために、苗字を変えることによって親が悲しむと認知しやすい。さらに苗字を変えることをあまり考えないために自分の苗字に愛着を持ちやすく、また苗字を同姓の他者への親近感に用いやすいことがここでは示唆されている。

##### 2) 多次元自我同一性尺度の因子分析

多次元自我同一性尺度20項目について、「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる」に対し1から7の得点化を施した。逆転項目については「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる」に対し7から1の得点化を施した。最尤法による因子分析を行い、プロマックス回転を行った。その結果、谷 (2001) と違う因子構造が得られた。信頼性もあまりよい結果が得られなかった。今後の検討では谷 (2001) が作成した因子構造に従い、各因子において項目の評定値を合計したものをを使用することとした。各項目の評定値と標準偏差をTABLE 5に示す。

##### 3) 家族アイデンティティ尺度の因子分析

家族アイデンティティ尺度32項目について、「あてはまらない」から「あてはまる」に対し1から5の得点化を施した。最尤法による因子分析を行い、プロマックス回転を行った。その結果、若干の項目の変動があったものの、林・岡本 (2005) と同様に5因子が抽出された。因子名は林・岡本 (2005) に従い、順に「家族の存在感」、「家族価値との適合性」、「対家族的自己」、「家族との関係」、「自己に対する家族の評価」とした。結果をTABLE 6に示す。

##### 4) 伝統的家族観尺度の因子分析

伝統的家族観尺度23項目について、「あてはまらない」から「あてはまる」に対し1から4の得点化を施した。最尤法による因子分析を行い、プロマックス回転を行った。共通性の低い1項目を削除し再度因子分析を行った結果、研究Ⅱと同様に2因子が抽出された。順に「伝統的性役割」、「累代的つながり」であった。これを後の検討のための項目として確定した。結果をTABLE 7に示す。

##### 5) 相関分析による男女差の検討

###### 苗字態度尺度と多次元自我同一性尺度

苗字態度尺度と多次元自我同一性尺度との関連を検討するため、苗字態度尺度各因子の因子得点と多次元自我

同一性尺度各因子の評定の合計値を算出した後、2変量の相関分析を行った。分析は対象者全体、男性、女性のそれぞれで行った。結果をTABLE 8に示す。

全体では次の因子間で相関がみられた。「同姓他者への親近感」と「対他的同一性」( $r=-.199, p<.05$ )、「上位世代でのつながり感」と「対他的同一性」( $r=-.184, p<.05$ )、「苗字によるつながり認知」と「対自的同一性」( $r=.161, p<.05$ )、「愛情期待」と「自己斉一性・連続性」( $r=-.200,$

$p<.05$ )、「自分の苗字への愛着」と「心理社会的同一性」( $r=.165, p<.05$ )。男性では次の因子間で相関がみられた。「苗字によるつながり認知」と「対自的同一性」( $r=.313, p<.01$ )。女性では次の因子間で相関がみられた。「上位世代でのつながり感」と「対他的同一性」( $r=-.290, p<.05$ )、「苗字によるつながり認知」と「自己斉一性・連続性」( $r=-.394, p<.01$ )、「愛情期待」と「自己斉一性・連続性」( $r=-.370, p<.01$ )。

TABLE3 苗字態度尺度の因子分析結果

	因子				
	同姓他者への親近感	上位世代でのつながり感	苗字によるつながり認知	愛情期待	自分の苗字への愛着
22.自分と同じ苗字の人がメディアに登場すると得意になる	<b>.834</b>	-.220	-.083	.039	.034
19.自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人に対しても運命的なつながりを感じる	<b>.825</b>	.103	-.051	.014	-.156
27.自分と同じ苗字の人がメディアに登場すると注目する	<b>.782</b>	-.014	-.006	-.025	.006
29.それまで親交のなかった人が自分と同じ苗字だとわかると嬉しい	<b>.771</b>	-.038	.043	-.093	.015
40.自分と同じ苗字なら、それまで親交のなかった人に対しても運命的なめぐり合わせを感じる	<b>.752</b>	.152	.050	-.091	-.031
13.自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人に対しても運命的なめぐり合わせを感じる	<b>.742</b>	.094	-.043	-.008	-.166
25.自分と同じ苗字の知人に対して運命的なめぐり合わせを感じる	<b>.730</b>	.150	.030	-.013	.048
34.自分と同じ苗字の知人に対して運命的なつながりを感じる	<b>.686</b>	.284	-.015	-.061	-.076
10.自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人でもひいき目に見てしまう	<b>.682</b>	-.124	-.117	.140	-.007
31.自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でもひいき目に見てしまう	<b>.669</b>	.082	.040	.024	-.155
37.自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でも仲良くなりやすい気がする	<b>.642</b>	.075	-.044	-.018	.127
41.自分と同じ苗字の人に会うと嬉しい	<b>.642</b>	.059	.064	-.013	.127
01.自分と同じ苗字の知人とは仲良くなりやすい気がする	<b>.632</b>	-.086	-.105	-.105	.190
04.自分と同じ苗字の人がメディアでたえられていると嬉しくなる	<b>.617</b>	-.050	-.045	.077	.094
16.自分と同じ苗字の人が犯罪をしたことを知ると嫌な気持ちになる	<b>.605</b>	-.100	.232	-.096	-.117
02.自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でも同じ先祖ではないかと思う	-.091	<b>.895</b>	.053	-.132	.121
11.自分と同じ苗字の知人とは同じ先祖ではないかと思う	-.001	<b>.842</b>	-.004	-.030	.092
32.自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人でも同じ先祖ではないかと思う	.112	<b>.799</b>	.009	.009	-.038
08.自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でもどこかでつながっていると思う	.080	<b>.750</b>	-.040	.086	-.007
20.自分と同じ苗字の知人とはどこかでつながっていると思う	.153	<b>.658</b>	-.052	.113	-.003
36.自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人でもどこかでつながっていると思う	.339	<b>.598</b>	.011	.094	-.120
12.親の苗字が変わったら、私は悲しくなる	-.115	.031	<b>.974</b>	-.084	-.078
39.親の苗字が変わったら、私は寂しくなる	-.101	.029	<b>.894</b>	.054	-.029
26.親の苗字が変わったら、私は嫌な気持ちになる	-.057	-.023	<b>.876</b>	.006	-.061
05.兄弟や姉妹の苗字が変わったら、私は寂しくなる	.022	.076	<b>.613</b>	-.037	.091
35.兄弟や姉妹の苗字が変わったら、私は悲しくなる	.162	-.172	<b>.511</b>	.223	.005
24.苗字は自分の一部分だ	.225	-.041	<b>.352</b>	-.066	.258
17.自分の苗字が変わったら、親が寂しがる	-.033	-.014	-.051	<b>.973</b>	-.039
28.自分の苗字が変わったら、親が悲しむ	-.016	.010	.088	<b>.836</b>	-.031
06.自分の苗字が変わったら、親が嫌な気持ちになる	-.066	.025	.034	<b>.834</b>	.029
03.自分の苗字が好きだ	-.001	.104	-.086	-.068	<b>.896</b>
21.自分の苗字が気に入らない	.231	-.018	.035	.079	<b>-.773</b>
30.自分の苗字が大切だ	.285	-.097	.127	.124	<b>.507</b>
38.結婚しても今の苗字を変えたくない	.050	.046	.059	.217	<b>.385</b>
15.自分の苗字と自分自身とは切り離すことができない	.155	.121	.221	.165	<b>.322</b>

TABLE4 苗字態度尺度各因子における性差

	男性		女性		t値	有意確率
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
同姓他者への親近感	.118	.965	-.225	.983	2.095	.038
上位世代でのつながり感	.043	.965	-.070	.995	.685	.494
苗字によるつながり認知	-.050	1.006	.083	.904	-8.11	.419
愛情期待	.135	.995	-.254	.872	2.424	.017
自分の苗字への愛着	.148	.879	-.268	.991	2.689	.008

TABLE5 多次元自我同一性尺度各因子の項目と平均値・標準偏差

	平均値	標準偏差
<b>自己同一性・連続性</b>		
01.過去において自分をなくしてしまったように感じる*	3.987	0.984
05.過去に自分自身を置き去りにしてきたような気がする*	4.276	1.783
09.いつのまにか自分が自分でなくなってしまったような気がする*	4.304	1.711
13.今のままでは次第に自分を失っていつてしまうような気がする*	4.310	1.851
17.「自分がない」と感じることがある*	3.962	1.905
<b>対目的同一性</b>		
02.自分が望んでいることがはっきりしている	4.236	1.727
06.自分がどうなりたいかはっきりしている	4.076	1.790
10.自分のすべきことがはっきりしている	4.234	1.697
14.自分が何をしたいのかよくわからないと感じるときがある*	2.911	1.691
18.自分が何を望んでいるかわからなくなることがある*	3.310	1.655
<b>対他的同一性</b>		
03.自分のまわりの人々は、本当の私をわかっていないと思う*	3.544	1.525
07.自分は周囲の人々によく理解されていると感じる	3.930	1.334
11.人に見られている自分と本当の自分は一致していないと感じる*	3.209	1.535
15.本当の自分は人には理解されないだろう*	3.785	1.565
19.人前での自分は、本当の自分ではないような気がする*	3.462	1.650
<b>心理社会的同一性</b>		
04.現実の社会の中で、自分らしい生き方ができると思う	4.095	1.551
08.現実の社会の中で、自分らしい生活が送れる自信がある	3.968	1.518
12.現実の社会の中で自分の可能性を十分に実現できると思う	3.886	1.378
16.自分らしく生きてゆくことは、現実の社会の中では難しいだろうと	5.703	1.202
20.自分の本当の能力を生かせる場所が社会にはないような気がする*	4.734	1.508

TABLE6 家族アイデンティティ尺度の因子分析結果

	因子				
	家族の存在感	家族価値との適合性	対家族的自己	家族との関係	自己に對する家族の評価
12.私にとって、家族の一員であることは重要なことである	.835	.135	.034	.016	-.069
32.私は、家族の悪口を言われたら、自分の悪口を言われたような気になる	.824	-.135	-.021	.150	-.177
25.私は、家族メンバーの一人であることに、喜びや幸福感を感じる	.770	.052	-.015	-.070	.101
30.私は、家族のことをほめられると嬉しくなる	.705	-.110	-.115	-.025	.083
19.私にとって家族の一員であることは、心の支えである	.703	-.056	-.066	.037	.199
08.私は、家族が幸せそうだと、自分も幸せな気持ちになる	.654	.161	-.173	.125	-.036
21.私にとって、家族は、唯一無二の存在である	.642	.027	.123	-.201	.031
14.私は、家族メンバーの一人であるといわれると、よい気持ちにする	.605	.068	.119	-.201	.102
04.私は、家族メンバーの一人であることから、安心感を得ている	.603	.159	.043	.037	.080
01.家族にとって重要なことは、私にとっても重要なことである	.588	.149	.066	.121	.145
28.私にとって、家族は、たいてい興味のない集団である*	-.489	.037	-.051	.383	-.080
15.家族のものの考え方や行動パターンは私にとって受け入れ易いものである	-.035	.786	.082	-.130	.075
10.家風や家族風土は、自分の価値観や考え方にあっている	-.115	.693	-.048	.050	.198
26.私の意見は、家族と大体同じである	.148	.620	.034	.151	.003
29.私は、家族の目標や規範は抵抗なく受け入れられる	.169	.612	.000	.020	-.157
13.私は、家族の決まりを守ることを負担には感じない	.114	.544	.004	-.108	-.079
05.私は、家族の決まりや考え方などに、納得できないものが多い*	.185	-.477	.096	.381	.184
22.家族の考え方は、私の考え方からかけ離れているような気がする*	.134	-.382	.186	.370	.015
09.家族の前での自分は、本当の自分ではないような気がする*	.035	.124	.867	.116	.006
16.家族に見られている自分と本当の自分は一致していないように感じる*	.081	.060	.860	.095	.013
23.家族は本当の私をわかっていないと思う*	.029	-.180	.731	.044	-.059
27.家族といっても、私はありのままの自分ではいられない	.203	.267	-.619	.281	.076
03.私は、家族の一員であることと、自分らしくあることに矛盾は感じない	.195	.003	-.396	-.064	.049
31.今のままでは、次第に家族が失われていつてしまうような気がする*	.128	.209	.107	.855	-.119
07.私は、家族との関係はぎくしゃくしていると感じている*	.158	-.151	.031	.750	-.072
11.私の家族は総合してみると、よい家族である	.138	.189	.136	-.626	.055
24.私は、現在の家族から抜け出したい*	-.258	-.126	-.042	.566	.087
17.家族と親密な関係になることは、私にとってあまり嬉しいことではない*	-.398	.177	.314	.422	.140
02.家族といっても、「家族ではない」と感じることがある*	-.279	-.048	.153	.332	.255
20.私の家族は、私のことを誇りに思っている	.134	-.117	-.013	-.013	.743
06.私の家族は、私を家族の一員として高く評価している	-.019	.076	.012	-.006	.738
18.私の家族は、私に失望している*	.108	.003	.112	.395	-.468

TABLE7 伝統的家族観尺度の因子分析結果

	因子	
	性伝 役統 割的	つ な が り 的
15.家事は女性が行うべきだ	.896	-.052
18.子育ては母親が行うべきだ	.846	-.139
21.妻は家事に専念するべきだ	.837	-.106
14.女性は嫁に行くべきだ	.788	.016
06.子どもの世話は母親が主にするものだ	.708	-.099
01.夫は仕事に専念するべきだ	.689	-.103
07.娘は将来主婦になることを想定して育てるべきだ	.668	-.054
04.家計簿をつけるのは妻の仕事だ	.631	.098
10.結婚に際しては男性側の家の意見を優先するべきだ	.602	.113
09.生活の重要事項は夫が決めるべきだ	.542	.099
13.妻は家計のやりくりに際し、夫の許可を取るべきだ	.479	.064
23.家族の物事の最終的な決定権を持つのは男性だ	.476	.177
20.息子は将来職業人になることを想定して育てるべきだ	.454	.055
17.妻は夫の家系の墓に入るべきだ	.439	.349
11.婿（むこ）入りは、極力避けるべきだ	.401	.219
16.祖先からの苗字を自分が絶やしてはならない	-.135	.982
05.自分の祖先からの苗字を絶やしてはならない	-.054	.924
08.姓は後世に残すべきだ	.027	.826
12.先祖から受け継いだ家の流れは途絶えさせないべきだ	.113	.755
19.血縁は残していくべきものだ	.088	.708
22.先祖とのつながりを大切にすべきだ	-.137	.572
03.妻は夫の墓に入らなければならない	.371	.393

TABLE8 苗字態度尺度と多次元自我同一性尺度との相関

	苗字態度尺度				
	同姓他者への 親近感	上位世代での つながり感	苗字による つながり認知	愛情期待	自分の苗字 への愛着
<b>全体</b>					
自己斉一性・連続性	-.137	-.039	-.082	-.200 *	-.015
対自的同一性	.022	-.048	.161 *	.043	.110
対他的同一性	-.199 *	-.184 *	-.018	-.143	.037
心理社会的同一性	-.105	-.067	.126	-.102	.165 *
<b>男性</b>					
自己斉一性・連続性	-.123	.020	.025	-.107	.021
対自的同一性	.054	-.025	.313 **	.136	.133
対他的同一性	-.160	-.126	.006	-.093	.129
心理社会的同一性	-.147	-.156	.163	-.062	.165
<b>女性</b>					
自己斉一性・連続性	-.110	-.162	-.394 **	-.370 **	.017
対自的同一性	-.049	-.087	-.187	-.177	-.082
対他的同一性	-.225	-.290 *	-.104	-.186	-.035
心理社会的同一性	-.017	.082	.047	-.146	.220

\*:  $p < .05$ , \*\*:  $p < .01$ , \*\*\*:  $p < .001$

今回の研究では苗字に関する態度と個人としてのアイデンティティとの関連は、大きくは見られなかった。しかし詳細に見ていくと、大学生における個人のアイデンティティ形成における苗字の役割を見出すことができる。

男女別に見た際、男性に特有に見られた相関は「苗字によるつながり認知」と「対自的同一性」であった。すなわち、苗字を介して家族とつながっている感覚と自分の望んでいることが明確に意識されている感覚が関連す

ることが示された。このことから、男性は対自的同一性の形成のため、家族に苗字とのつながりを必要としていると考えられる。

また女性に特有の相関は「上位世代でのつながり感」と「対他的同一性」、「愛情期待」と「自己斉一性・連続性」であり、全て負の相関であった。すなわち自分が自分であるという一貫性や時間的な連続性の感覚と、苗字を介して家族とつながっている感覚や自身の改姓に親から悲

しまれるという期待との、負の関連が示された。このことから女性において自己の斉一性や連続性が高い人では苗字に対する執着が薄くなり、頓着していないことが考えられる。逆に斉一性・連続性が低い人は、苗字を一つの契機として家族とのつながりを求めようとすると思われる。女性ではまた、他者から見られている自分と本来の自分の一致の感覚が同姓の他者に対して上位世代でのつながりを認知することと負の関連を示した。このことから、他者との間での同一性が形成されにくいあるいは損なわれる感覚の中では、苗字を媒介として他者とつながろうとする個人の姿が見えてくる。

以上から、大学生の男性においては現在苗字に対自的同一性形成のための家族をつなげる役割が、女性においては自己の斉一性・連続性や対他的同一性の形成がされにくい時に家族や他者をつなげる役割があることが示唆される。男女で相関の出方に違いが見られたことには、9割以上の夫婦が夫の姓に合わせるという現状があること（厚生労働省, 1998）が影響していると思われる。現状では個人が将来の結婚を考えた際、女性は改姓を予想するが男性は改姓を予想しにくいだろう。この下では、男性と女性にとっての苗字の役割は結婚する以前から異なることが十分に考えられる。

また男女別に見た際関連はなかったものの、全体で相関があったものが見出された。これらについては男女以外の変数に説明が求められると思われる。今後の検討が必要な点である。

#### 苗字態度尺度と家族アイデンティティ尺度

苗字態度尺度と家族アイデンティティ尺度との関連を検討するため、2つの尺度の各因子の因子得点を算出した後、2変量の相関分析を行った。分析は対象者全体、男性、女性のそれぞれで行った。結果をTABLE 9に示す。

全体では次の因子間で相関がみられた。「同姓他者への親近感」と「家族の存在感」( $r=.184, p<.05$ )、「同姓他者への親近感」と「自己に対する家族の評価」( $r=.232, p<.01$ )、「苗字によるつながり認知」と「家族の存在感」( $r=.344, p<.001$ )、「苗字によるつながり認知」と「家族の存在感」( $r=.180, p<.05$ )、「自分の苗字への愛着」と「家族の存在感」( $r=.279, p<.001$ )、「自分の苗字への愛着」と「家族価値との適合性」( $r=.160, p<.05$ )、「自分の苗字への愛着」と「対家族的自己」( $r=.212, p<.01$ )、「自分の苗字への愛着」と「家族との関係」( $r=.201, p<.05$ )。男性では次の因子間で相関がみられた。「同姓他者への親近感」と「家族の存在感」( $r=.207, p<.05$ )、「同姓他者への親近感」と「自己に対する家族の評価」( $r=.240, p<.05$ )、「苗字によるつながり認知」と「家族の存在感」( $r=.340, p<.001$ )、「自分の苗字への愛着」と「家族の存在感」( $r=.391, p<.001$ )、「自分の苗字への愛着」と「家族価値との適合性」( $r=.224, p<.05$ )、「自分の苗字への愛着」と「対家族的自己」( $r=.283, p<.01$ )、「自分の苗字への愛着」と「家族との関係」( $r=.278, p<.01$ )。女性では次の因子間で相関がみられた。「苗字によるつながり認知」と「家族との関係」( $r=.335, p<.05$ )。

今回の研究で苗字に関する態度と家族の一員としてのアイデンティティとの関連は、男性において顕著であった。男性特有に見られたものとして、まず「自分の苗字への愛着」と「家族の存在感」・「家族価値との適合性」・「対家族的自己」・「家族との関係」が挙げられる。すなわち、自分の苗字に対する愛着と家族の一員であるという感覚が斉一性・連続性をもって存在していることとの関連が示された。これは男性において家族の一員としてのアイデンティティを確立することに苗字が必要とされていることを示唆している。男性における家族の一員としての感覚には苗字に関する態度が大きく影響すること、あるいは家族との関係が良好であることや家族と価値観を共有していることが苗字を単に記号としてだけでなく個人にとって意味のあるものとなっていることが、この結果から推察される。

また男性において「同姓他者への親近感」・「上位世代でのつながり感」・「苗字によるつながり認知」と「自己に対する家族の評価」との相関が見られたことについて触れる。ここでは苗字でのつながりを他者や家族に求めることと家族が自分に肯定的な評価をしていることの認知が関連することが示されている。このことから家族に肯定的な評価をされることが苗字をきっかけとした他者とのつながりに影響する、あるいは他者とのつながりの中で苗字を意識することが家族内での行動に影響することが考えられる。

さらに、男女共通に「家族の存在感」と「苗字によるつながり認知」との相関が見られた。すなわち苗字を介して家族とつながっているという認知と家族の一員として自身が存在しているという感覚との関連が示された。家族の一員であるという感覚は、家族相互のつながりとはまではないかもの、個人が家族に対して情緒的な絆をもっていると考えられうるものである。そのようなヨコのつながりに苗字が役割を果たしていることが、この結果からは示唆される。

#### 苗字態度尺度と伝統的家族観尺度

苗字態度尺度と伝統的家族観尺度との関連を検討するため、2つの尺度の因子得点を算出した後、2変量の相関分析を行った。分析は対象者全体、男性、女性のそれぞれで行った。結果をTABLE10に示す。

全体では次の因子間で相関がみられた。「同姓他者への親近感」と「伝統的性役割」( $r=.288, p<.001$ )、「同姓他者への親近感」と「累代的つながり」( $r=.372, p<.001$ )、「上位世代でのつながり感」と「累代的つながり」( $r=.268, p<.01$ )、「苗字によるつながり認知」と「伝統的性役割」( $r=.219, p<.01$ )、「苗字によるつながり認知」と「累代的つながり」( $r=.372, p<.001$ )、「愛情期待」と「累代的つながり」( $r=.324, p<.001$ )、「自分の苗字への愛着」と「累代的つながり」( $r=.354, p<.001$ )。男性では次の因子間で相関がみられた。「同姓他者への親近感」と「伝統的性役割」( $r=.219, p<.05$ )、「同姓他者への親近感」と「累代的つながり」( $r=.342, p<.01$ )、「上位世代でのつながり感」と「累代的つながり」( $r=.317, p<.01$ )、「苗字による

TABLE9 苗字態度尺度と家族アイデンティティ尺度との相関

	苗字態度尺度				
	同姓他者への 親近感	上位世代での つながり感	苗字による つながり認知	愛情期待	自分の苗字 への愛着
<b>全体</b>					
家族の存在感	.184 *	.090	.344 ***	.149	.279 ***
家族価値との適合性	.126	.081	.093	-.026	.160 *
対家族的自己	-.081	-.053	.063	-.127	.212 **
家族との関係	-.047	-.052	.131	-.015	.201 *
自己に対する家族の評価	.232 **	.157	.180 *	.112	.127
<b>男性</b>					
家族の存在感	.207 *	.130	.340 **	.166	.391 ***
家族価値との適合性	.126	.064	.081	.017	.224 *
対家族的自己	-.074	-.034	.086	-.088	.283 **
家族との関係	.001	-.031	.158	.061	.278 **
自己に対する家族の評価	.240 *	.207 *	.219 *	.161	.113
<b>女性</b>					
家族の存在感	.215	.043	.335 *	.194	.200
家族価値との適合性	.185	.131	.094	-.044	.152
対家族的自己	-.020	-.065	-.010	-.124	.216
家族との関係	-.069	-.065	.066	-.087	.175
自己に対する家族の評価	.258	.091	.087	.054	.218

\*:  $p < .05$ , \*\*:  $p < .01$ , \*\*\*:  $p < .001$

TABLE10 苗字態度尺度と伝統的家族観尺度との相関

	苗字態度尺度				
	同姓他者への 親近感	上位世代での つながり感	苗字による つながり認知	愛情期待	自分の苗字 への愛着
<b>全体</b>					
伝統的性役割	.288 ***	.112	.219 **	.200	.066
累代的つながり	.372 ***	.268 **	.372 ***	.324 ***	.354 ***
<b>男性</b>					
伝統的性役割	.219 *	.100	.259 *	.188	.126
累代的つながり	.342 **	.317 **	.407 ***	.310 **	.392 ***
<b>女性</b>					
伝統的性役割	.361 **	.129	.171	.163	-.078
累代的つながり	.363 **	.171	.396 **	.252	.209

\*:  $p < .05$ , \*\*:  $p < .01$ , \*\*\*:  $p < .001$

つながり認知」と「伝統的性役割」( $r=.259, p<.05$ )、「苗字によるつながり認知」と「累代的つながり」( $r=.407, p<.001$ )、「愛情期待」と「累代的つながり」( $r=.310, p<.01$ )、「自分の苗字への愛着」と「累代的つながり」( $r=.392, p<.001$ )。女性では次の因子間で相関がみられた。「同姓他者への親近感」と「伝統的性役割」( $r=.361, p<.01$ )、「同姓他者への親近感」と「累代的つながり」( $r=.363, p<.01$ )、「苗字によるつながり認知」と「累代的つながり」( $r=.396, p<.01$ )。

今回の研究では苗字に関する態度と伝統的家族観との関連が大きく見られた。男女別にみた際、男女共通に相

関が見られたものは「同姓他者への親近感」と「伝統的性役割」・「累代的つながり」、「苗字によるつながり認知」と「累代的つながり」であった。このことから、苗字が先祖から受け継がれており、またその延長として現在の家族をつないでいると我々が認知していることを示唆している。すなわち、家族や先祖といったタテのつながりに対して苗字が役割を担っていることがこれらの結果からうかがえる。

男性に特有の相関は「上位世代でのつながり感」と「累代的つながり」、「苗字によるつながり認知」と「伝統的性役割」、「愛情期待」と「累代的つながり」、「自分

の苗字への愛着」と「累代的つながり」であった。すなわち男性において同姓他者への上位世代でのつながりの感覚や自分の苗字への愛着は、累代的つながりと関連することが示された。このことは家族一般に対する伝統的な価値観が特に男性において残っており、苗字に関する態度にもその要素が含まれていることを示唆している。あるいは夫婦の9割以上が夫の姓にあわせる現状が、男性において苗字によるタテのつながりを広範にわたって感じさせているとも考えられる。

## 総合考察

本研究では、大学生における苗字への態度と個人としてのアイデンティティ、家族の一員としてのアイデンティティ、及び家族に対する伝統的な価値観との関連を検討し、苗字の役割を心理学研究の立場から見出すことを目的に調査を行った。

その結果、本研究において以下の事柄が示唆された。

### 1. 苗字に関する態度

まず、大学生における苗字に関する態度は、「同姓他者への親近感」、「上位世代でのつながり感」、「愛情期待」、「苗字によるつながり認知」、「自分の苗字への愛着」から成り立っていることが明らかとなった。

仮説を立てる段階において、苗字に関する態度とは、姓を共有する家族や同姓の知人および同姓であるという共通点しかもたない他者のような、ある集団への所属意識や親近感をあらわすものであると考えた。しかしその側面だけではなく、同時に、自分自身がそれまでにたくわえた知識や積み上げた経験を包含した自己との同一視も含まれると仮説を立て、調査を行なった。

しかし、分析を行なった結果、本研究の調査対象者である大学生に、苗字と自分自身の過去経験や現在の態度行動とを同一視する傾向はみられず、愛着を示すにとどまった。それに比して、集団との同一性はよりつよくみとめられた。まず家族への意識は、同姓であることにより、自分が家族とのつながりを認める態度と、家族が自分を集団の一員だと認めることを期待するという、双方向の態度がみとめられた。また、家族以外の者への意識は、同姓他者本人への親近感と、同姓他者と上位世代でつながっていることを想像する態度がみとめられた。

これらのことは、大学生の多くが定位家族に所属しているからこそその結果といえるかもしれない。我々は生まれて以降、苗字や苗字が指し示す内容を学習するが、その際周囲の者から、定位家族への言及があることは容易に推察される。また、その定位家族を中心に親戚との関係や、同姓であり遠縁にあたる集団、同姓であるが家族ではないという集団の存在についても説明を受けることもあわせて推察できる。したがって、一般に定位家族への意識はもちろんのこと、家族ではない同姓に対してもある種の同族意識がつかわれ、過去のどこかで接点があったかもしれない思いをはせ親近感を覚えることも十分考えられる。

このように、定位家族とのつながりが強いなかで生活をしていれば、自ずと所属意識が維持されるのであろう。しかし、大学生である青年期においては、親世代との関係が一方的権威的關係から相互的協調的關係へと移行する(Hill, 1987)。したがって、家族との関係の認知は、自分自身が家族に対してどのようにとらえているかと、家族が自分自身のことをどのようにとらえているか、という双方向からの客観的な視点が考慮されるのではなかろうか。

本研究においては、苗字と自分自身の過去経験や現在の態度行動とを同一視する傾向はみとめられなかった。本研究の調査対象者は大学生であったが、同世代であってもそれ以上であっても、職に就きキャリアを積み重ね、社会的役割でのアイデンティティが確立していく過程において、苗字に関する態度が異なった要素をもつかもしいれない。あるいは改姓を求められるという事態が実際に身に迫り、それが危機として個人にとらえられたならば、自身や家族に対して苗字が持つ役割を再確認、もしくは再検討を行なうかもしれない。その場合には、当事者だけではなく、家族の苗字に関する態度を考慮する必要性が出てくることも容易に考えられる。苗字に関する態度の再構築は個人にとって大きな影響を与えるものであり、研究をさらにすすめることは非常に意義深い。大学生が社会に進出し、社会での責任が大きくなり、あるいは新たな家族の形成を行なう際に、この苗字に関する態度がどのように変容するのかを明らかにすることも、今後の課題となろう。

### 2. 苗字に関する態度と自己同一性、家族との同一性、および家族観

次に、苗字に関する態度と、アイデンティティの中でも関連のあることが予測される、自己同一性、家族との同一性、家族観のなかの伝統的家族観との各関連を検討した。その結果、性差があることが明らかになった。

男性に焦点を当てると、苗字に関する態度の「苗字による親とのつながり認知」と自己同一性の「対自的同一性」に関連がみられた。また、家族との同一性との関連については特に苗字に関する態度の「自分の苗字への愛着」と、家族との同一性の「家族の存在感」・「家族価値との適合性」・「対家族的自己」・「家族との関係」との関連、苗字に関する態度の「同姓他者への親近感」・「上位世代でのつながり感」・「苗字によるつながり認知」と、家族との同一性の「自己に対する家族の評価」にも関連がみられた。さらに、伝統的家族観との関連では特に、苗字に関する態度の「上位世代でのつながり感」・「愛情期待」・「自分の苗字への愛着」と、伝統的家族観の「累代的つながり」、また、苗字に関する態度の「苗字によるつながり認知」と伝統的家族観の「伝統的性役割」に関連が見られた。

一方、女性に焦点を当てると、苗字に関する態度の「上位世代でのつながり感」と自己同一性の「対他的同一性」、「愛情期待」と「自己斉一性・連続性」に負の相関が認められた。また、苗字に関する態度の「苗字による

つながり認知」と家族との同一性の「家族との関係」に関連がみとめられ、伝統的家族観においては女性特有の関連がみとめられなかった。

まず、女性は男性よりも苗字に関する態度が関連すると予測される自己や家族へのアイデンティティ、および家族観と密接な関係がみとめられなかった。これは、男性の方が女性よりも総じて苗字に関する態度を高く有していることとも関連しているものと思われる。これらの結果は、そもそも9割以上の夫婦が夫の姓に合わせるという現状(厚生労働省, 1998)が多分に影響していることが考えられる。この事柄はおおむね誰もが認識していることであって、女性の多くは改姓の機会があることを念頭に置いているのかもしれない。したがって、少なくとも定位家族の姓にはあまり頓着しない態度がうかがえた。反して、自己の斉性・連続性が低い人は、苗字を一つの契機として家族とのつながりを求めようとするのがみとめられた。また、他者から見られている自分と本来の自分との不一致の感覚が、同姓の他者に対して上位世代でのつながりを認知することと関連を示した。このことから、他者との間での同一性が形成されにくい、あるいは、損なわれる感覚の中では、苗字を媒介として他者とつながろうとする態度がうかがえた。自分自身に対する同一性が認められないような自信のなさが強く喚起されている場合、そのよりどころを定位家族や同姓他者に求めることで、所属していることによる安心感を得ているのかもしれない。反対に、自己を確立している場合は、それほど集団に所属意識や所属していることでの安心感や充足感のような正の意識を求めるという態度はあらわれないのかもしれない。

それに比して男性は、苗字に関する態度が、自分がどうい存在でどうあるべきかという自己への意識を強く抱かせ、家族の一員であるという感覚が斉性・連続性をもって存在している。つまり、男性にとって苗字に関する態度は個人を支え、将来像を考えさせるものであり、また同時に、家族や同族への意識を強く喚起させ家族の一員であるという所属意識を高める。苗字は単に個人をあらわす記号としてだけでなく、各個人に自己の連続性と、家族に対する情緒的なヨコのつながり、さらには、上位世代に対するタテのつながりを抱かせる、という、自己を支えることにあたり非常に重要なものであることが明らかとなった。これは、養育されている際に、個人差はあっても、親や祖父母、親族から、家(イエ)を維持繁栄させて欲しいという期待をかけられていることが考えられる。そして、本人は意識的無意識的にその期待に応えようとしているのかもしれない。これらの期待も苗字に関する態度を形成維持することに大きな役割を果たしているといえる。

このように、青年期の男性にとって苗字は、特に家族の一員として存在するような個人を支え、また家の維持や上位世代とのつながりを示しており、青年期の女性でアイデンティティが確立しない者にとって、家族との苗字でのつながりが自身のよりどころとなるほど大きな

要素であることが示された。夫婦同姓/別姓の問題を考える際には、苗字が青年期におけるアイデンティティの再構築に重要な役割を担っていることを考慮に入れて議論を重ねることを期待したい。

## 引用文献

- 青山道夫・武田 旦・有地 享・江守五夫・松原治郎 (1974). 講座家族 2. 家族の構造と機能 弘文堂
- 土肥伊都子(2007). 社会的カテゴリーとしての苗字—「苗字アイデンティティ」に対するカテゴリーサイズの効果 神戸松蔭女子学院大学研究紀要, 48, 17-33.
- 福島瑞穂 (1992). 結婚と家族 岩波新書
- 林 奈那・岡本祐子 (2003). 青年の家族行事体験が家族アイデンティティ形成に及ぼす影響 青年心理学研究, 15, 17-31.
- 林 奈那・岡本祐子 (2005). 青年の家族に対する関与と家族アイデンティティ発達の関連 家族心理学研究, 19, 13-29.
- Hill, J. P. (1987). Research on adolescents and their families: Past and prospect. In C. E. Irwin (Ed.) *Adolescent social behavior and health: New directions for child development*, Jossey-Bass, 37, 13-31.
- 唐沢 穰 (1999). 自己カテゴリー化 中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁榊算男・立花政夫・箱田裕司 (編) 心理学辞典 有斐閣
- 唐沢 穰 (2005). 社会的アイデンティティ 中島義明 (編) 新・心理学の基礎知識 有斐閣
- 厚生労働省 (1998). 厚生白書  
<http://www.hakusyo.mhlw.go.jp/wp/index.htm>
- 松原治郎・高橋 均・細川幹夫・大村好久 (1971). 家族生活の社会学 学文社
- 松下姫花・吉田 愛 (2009). 大学生における友人関係と自我同一性との関連 広島大学心理学研究, 9, 207-216.
- 宮崎太一・西川和夫 (2004). 進路決定自己効力に対する自我同一性および自己統制感の影響: 中学生を対象とした追跡的研究 三重大学教育学部研究紀要, 教育科学, 55, 103-113.
- 本村 汎 (1993). 近代家族 森岡清美・塩原 勉・本間康平 (編) 新社会学辞典 有斐閣
- 内閣府大臣官房政府広報室 (2006). 家族の法制に関する世論調査  
<http://www8.cao.go.jp/survey/h18/h18-kazoku/index.html>
- 日本弁護士連合会 (1996). 選択的夫婦別姓制導入並びに非嫡出子差別撤廃の民法改正に関する決議  
[http://www.nichibenren.or.jp/ja/opinion/hr\\_res/1996\\_2.html](http://www.nichibenren.or.jp/ja/opinion/hr_res/1996_2.html)
- 日本政策研究センター (1995). 家族の「絆」を断ち切る「夫婦別姓」に反対する 日本政策研究センター明日への選択 日本政策研究センター

- 長田雅喜（編）（1987）．家族関係の社会心理学 福村出版
- 鈴木淳子（1994）．平等主義的性役割態度スケール短縮版（SESRA-S）の作成 心理学研究, **65**, 34-41.
- Tajfel, H. & Turner, J. C. (1979). An integrative theory of intergroup conflict. In W. G. Austin & S. Worchel (Eds.), *Social psychology of intergroup relations*. Monterey, Brooks/Cole.
- Tajfel, H. & Turner, J. C. (1986). The Social Identity Theory of Intergroup Behavior, S. Worchel & W. G. Austin (Eds.), *Psychology of Intergroup Relations*, 2nd ed. Burnham,
- 谷 冬彦（2001）．青年期における同一性の感覚の構造—多次元自我同一性尺度（MEIS）の作成— 教育心理学研究, **49**, 265-273.
- Tuttle, L. (1986). Encyclopedia of feminism. Facts on File. [渡辺和子（監訳）（1998）新版フェミニズム事典 明石書店]
- 上野千鶴子（1994）．近代家族の成立と終焉 岩波書店
- 読売新聞（2009）．夫婦別姓導入へ…政府、来年にも民法改正案 9月27日

## 資料1 苗字態度尺度作成のための項目群

- 
- 01 自分と同じ苗字の人に会うと嬉しい
  - 02 親の苗字が変わったら、私は寂しくなる
  - 03 自分と同じ苗字の人がメディアに登場すると得意になる
  - 04 自分の苗字が好きだ
  - 05 自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でも仲良くなりやすい気がする
  
  - 06 自分の苗字の由来を知りたい
  - 07 親戚の苗字が変わったら、私は悲しくなる
  - 08 自分と同じ苗字の人がメディアに登場すると注目する
  - 09 自分の苗字が変わったら、親が悲しむ
  - 10 自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でも同じ先祖ではないかと思う
  
  - 11 自分の苗字が大切だ
  - 12 親の苗字が変わったら、私は嫌な気持ちになる
  - 13 自分と同じ苗字の人が犯罪をしたことを知ると嫌な気持ちになる
  - 14 自分と同じ苗字の知人が身近にいと、その相手を意識してしまう
  - 15 自分と同じ苗字の人がメディアでたたえられていると嬉しい
  
  - 16 自分の苗字の発祥地を知りたい
  - 17 兄弟や姉妹の苗字が変わったら、私は寂しくなる
  - 18 結婚後も旧姓を通称として使うつもりだ
  - 19 自分と同じ苗字の知人に対して運命的なつながりを感じる
  - 20 自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人でも同じ先祖ではないかと思う
  
  - 21 自分と同じ苗字なら、それまで親交のなかった人に対しても運命的なめぐり合わせを感じる
  - 22 兄弟や姉妹の苗字が変わったら、私は悲しくなる
  - 23 結婚しても今の苗字を変えたくない
  - 24 自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人でもひいき目に見てしまう
  - 25 自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人でもどこかでつながっていると思う
  
  - 26 自分の苗字が間違っていると書かれていると不快だ
  - 27 兄弟や姉妹の苗字が変わったら、私は嫌な気持ちになる
  - 28 自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人に対しても運命的なつながりを感じる
  - 29 自分と同じ苗字の知人をひいき目に見てしまう
  - 30 自分と同姓同名の人をインターネットなどで見つけたら嬉しい
  
  - 31 自分の苗字が未来も絶えずにあってほしい
  - 32 親戚の苗字が変わったら、私は寂しくなる
  - 33 自分と同じ苗字なら、メディアに登場する人に対しても運命的なめぐり合わせを感じる
  - 34 自分と同じ苗字の知人とは仲良くなりやすい気がする
  - 35 自分の苗字をそれまで親交のなかった人が覚えてくれると嬉しい
  
  - 36 苗字は自分の一部分だ
  - 37 親の苗字が変わったら、私は悲しくなる
  - 38 自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でもひいき目に見てしまう
  - 39 自分と同じ苗字の知人とは同じ先祖ではないかと思う
  - 40 自分の苗字をそれまで親交のなかった人が呼んでくれると嬉しい
  
  - 41 自分の苗字と自分自身とは切り離すことができない
  - 42 親戚の苗字が変わったら、私は嫌な気持ちになる
  - 43 自分の苗字が変わったら、新しい自分になれる気がする
  - 44 自分と同じ苗字の知人に対して運命的なめぐり合わせを感じる
  - 45 自分と同じ苗字の知人とはどこかでつながっていると思う
  
  - 46 自分の苗字をそれまで親交のなかった人が間違えると不快だ
  - 47 苗字が変わると、それまでの自分とは異なってしまう
  - 48 自分の苗字が変わったら、親が寂しがらる
  - 49 自分の苗字と同じ漢字が含まれる苗字に親しみを感じる
  - 50 自分の苗字を知人が覚えてくれていると嬉しい
  
  - 51 自分の苗字が気に入らない
  - 52 自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人でもどこかでつながっていると思う
  - 53 親の離婚によって、自分の苗字が変わっても構わない
  - 54 自分と同じ苗字の地名の場所に親近感を持つ
  - 55 自分の苗字を知人が間違えると不快である
  
  - 56 自分の苗字と似たような音をもった苗字に親しみを感じる
  - 57 それまで親交のなかった人が自分と同じ苗字だとわかると嬉しい
  - 58 自分の苗字が変わったら、親が嫌な気持ちになる
  - 59 自分と同じ苗字なら、見知らぬ他人に対しても運命的なつながりを感じる
  - 60 自分の苗字が変わると、それまで培ってきたものが消える気がする
-

